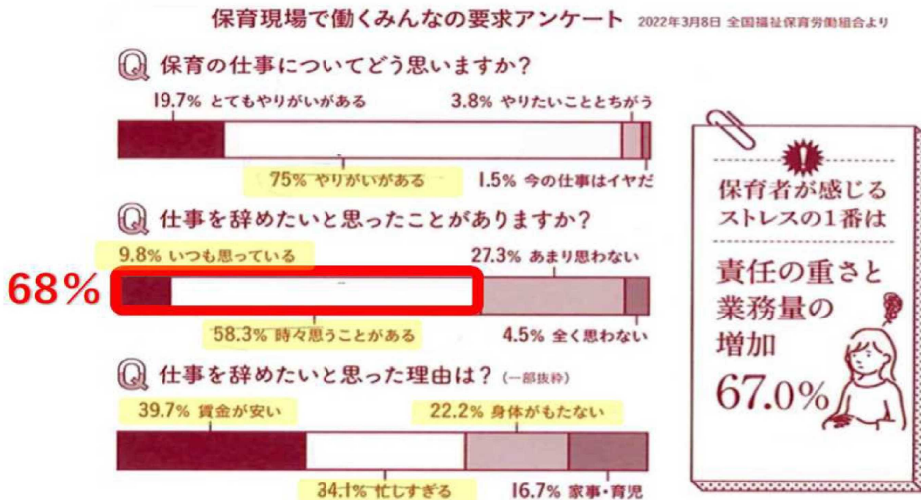


図5



◆出典「子どもたちにもう一人保育士を！」実行委員会

たい人は増えるということです。

知り合いの20代の保育士が3月で2人退職します。2人とも保育士として経験を積んで、先輩の相談にもものっていました。初めて幼児クラスを担当し、20人以上の子どもに加え、支援の必要な子が数人いて、毎日、怪我のないように過ごすことが精一杯だったと思います。一人ひとりの気持ちを大事にしたいという理想の保育と、現実とのギャップは大きく、それが退職の一因になったとのこと。クラス担任としてもう一人同等の責任を持つ保育士がいたら、退職しなくてすんだのではな

いかと思います。

私がこの運動に力を入れるのは、保育の中で「もう一人保育士がいれば、子どもにも保護者にも保育士にも辛い思いをさせることはなかった」という経験を数え切れないほどしてきたからです。

実行委員会では、保育者アンケートと保護者アンケートに取り組み、合計で約4,000人の声を集めました。

保育者アンケート結果を一つ紹介すると、「地震や火災が起きた時に子どもの命と安全を守ることができない」と思っている保育士

図6



◆出典「子どもたちにもう一人保育士を！」実行委員会

図7

送迎時に保育士の数が足りないと感じるか	人数	率
足りていないとよく感じる	610	41.6%
足りていないとたまに感じることもある	704	48.0%
どちらかといえば足りていると思う	101	6.9%
十分足りていると思う	11	0.7%
保育士の数を気にしたことがない	34	2.3%
未回答・不明	7	0.5%
合計	1,467	100%

◆出典「子どもたちにもう一人保育士を！」実行委員会

が約84%もいました。図6は2階から避難する1歳児6人と保育士1人を描いたイラストです。階段の踊り場に残る4人の子どもの不安、助けられないかもしれないという保育士の不安は計り知れません。

保護者アンケート結果も一つ紹介すると、図7のように保育士の数が足りていないと感じている保護者がなんと約90%でした。

私たちは保護者を不安にさせないように、保育士が足りていない時も知られないように全力で笑顔で保育していますが、こんなに多くの保護者が気づいていたことを思い知らされました。この二つのアンケート結果をみて、さらに配置基準を変えたいという思いが強くなりました。

この運動はツイッターやインスタグラム、TikTok、四コマ漫画やイラストで発信しました。22万回再生されている動画もあります。マスコミが注目しテレビや新聞、そして国会でも何度も取り上げられ、たくさんの地方議会が配置基準改善の意見書を国に提出し、運動はさらに全国各地に広がりました。

そして2024年2月、内閣府令に3、4、5歳児の配置基準改正が入りました。しかし、基準改正のために準備されたお金が少なく、当分の間は今の基準のままでもいいとする経過措置がついています。私たちは引き続き、予算の増額と、経過措置の期限を設定すること、すべての年齢を外国並みの基準にすることを求めています。さらに自治体にむけては、地方交付税措置されるのだから、公立保

育園も含めて早急に改正するように求めています。

まだまだ課題はありますが、愛知から全国に広がった運動をきっかけに、76年ぶりに配置基準が変わることは大きな成果です。これは、長年の保育運動の積み重ねを基礎に、基準改正の1点を目標にした運動が、思想信条や支持政党等のあらゆる違いを超えて認め合い、広がったことで勝ち取れたのだと思います。さらに、労働組合の運動のノウハウと、保護者たちのアイデアが重なりあった新しい運動が、多くの人に支持されました。この新しい運動をヒントにして、今の政治や制度の矛盾を改善していくことができたらいいと思います。